

福祉

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
福祉	介護過程	3	3年次・M群	選択

目 標		履修の条件・連絡			
利用者の尊厳の保持、自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解し、利用者の生活課題の解決に向け、介護過程を展開できる能力と態度を育てる。 福祉に関する基礎的知識や技術を統合して、適切な介護が提供できるようになる。		福祉サービス系列の生徒は必ず履修する。			
使用教科書 (出版社)	介護過程 (実教出版)	副教材 (準備物)	介護福祉士実務者研修テキスト第3巻 介護Ⅱ(中央法規)		
学 習 の 年 間 計 画	期	月	学 習 の ね ら い		
	1 学 期	4	第1編 介護過程の意義と目的 第1章 介護過程がめざすもの 第1節 生活支援と根拠にもとづいた介護 第2節 介護過程の意義 第3節 介護過程の目的・基本視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠に基づいた介護の実践には、利用者視点での生活課題の解決を目的とした介護過程が必要であることを理解する。</li> <li>アセスメントの目的や実施していく上で必要とされる能力について理解するとともに、ICFの視点を活かした望ましいアセスメントのあり方を考察する。</li> <li>介護実習での情報収集の方法やコミュニケーションのあり方や留意点を理解するとともに演習を行う。</li> </ul>	
		5	第2編 介護過程の展開		
		6	第1章 情報収集とアセスメント		
	2 学 期	7	第2章 生活課題と目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集した情報の解釈から関連づけ統合化、その後の課題の明確化までの一連の流れについて考察する。</li> <li>介護目標の設定の仕方や介護支援専門員が作成する施設及び居宅におけるケアプランと介護職が作成する個別援助計画のつながりを理解し、実際に計画書を作成する。</li> <li>介護計画を実施していく中で行う実施状況の把握や記録の意義、目的を理解するとともに介護職として求められる視点を考察する。</li> <li>高齢者の事例を活用し、ICFの視点による実際のアセスメントの方法を具体的に考察する。</li> <li>多様な障害のある人の事例を活用し、個別援助計画に添った介護の実践に対する評価の方法を具体的に考察する。</li> </ul>	
		9	第3章 介護計画の立案		
		10	第4章 介護計画の実施と評価 事例研究・演習①②③		
		11	第3編 介護過程の実践的展開 第1章 介護過程の展開の実際		
	3 学 期	12	第4編 介護過程とチームアプローチ 第1章 介護過程とチームアプローチの意義 第2章 介護過程とチームアプローチの実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の生活課題に向け、チーム内における介護職としての役割を理解するとともに、多職種と円滑に連携を深めていく上での方法を具体的に考察する。</li> <li>事例を題材に施設や在宅の福祉サービスでの専門職による連携のあり方を理解するとともに、チームアプローチを図る上で介護職に求められる姿勢を考察する。</li> </ul>	
		1			
2					
学 習 評 価	観 点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	規 準	介護過程に興味をもち、利用者の個別ケアのあり方を積極的に考察する。 高齢者や障害者などの自立生活支援に向けて具体的に支援できる。	介護過程の意義と役割を理解し、課題を解決するための思考を深めることができる。 課題解決に向けて、適切に判断する能力を身に付ける。	利用者のニーズに応じた介護計画書を作成できる。 具体的な事例を通して、チームアプローチの展開方法を身に付ける。	個別性を考慮した適切な介護の提供には、介護過程が必要であることを理解する。 介護過程の展開にはICFの視点が重要であることを理解する。
	手 段	・取組状況の観察 ・提出物の提出状況	・定期考査 ・ワークシート	・ワークシート ・取組状況の観察	・定期考査 ・ワークシート
	各学期や年間の学習状況の 評価方法	・考査は年5回実施し、考査点と平常点により評価する。 ・平常点は、出席状況、授業態度、提出物等を総合的に判断して評価する。			
学習上の 留意点	・実務者研修の内容を含む。 ・情報収集、アセスメント、介護計画立案のポイントを身に付けるために、さまざまな事例研究を行う。 ・グループワークでいろいろな意見を積極的に出し合うことが必要である。				